

■ 除草剤：農業用

ワンサイド® P 乳剤

登録番号：20123
 毒性：－
 消防法：第2石油類
 有効年限：3年

成分 フルアジホップP……17.5%
 物理的・化学的性状 褐色澄明可乳化油状液体

包装：500ml×20 1ℓ×10

◆特長

- メヒシバ、ノビエ、エノコログサなどの一年生から多年生（チガヤ、ヨシ、ススキ）に至るまで、広範囲なイネ科雑草に対して強力に作用します。
- 有効成分は、雑草の茎葉部および根部から容易に吸収され、体内を移行して成長点および節部の分裂組織に作用し、周辺細胞を壊死させることによって植物全体を枯死させます。

◆適用と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	フルアジホップを含む農業の総使用回数
				薬量	希釈水量				
だいず	－	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草 8～10葉期) 但し、収穫 60日前まで	100ml ／10a	100ℓ ／10a	1回	雑草茎葉 散布	全域 (北海道 を除く)	1回
			雑草生育期 (イネ科雑草 5～8葉期) 但し、収穫 60日前まで		通常散布 50～100ℓ ／10a				
			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 60日前まで	75～ 100ml ／10a	少量散布 25～50ℓ ／10a			全域	
えだまめ	－	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草 5～8葉期) 但し、収穫 30日前まで	100ml ／10a	少量散布 25～50ℓ ／10a	1回	雑草茎葉 散布	全域	1回
			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで						

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯	フルアゾホップ を含む農薬の 総使用回数	
				薬量	希釈 水量					
あずき	—	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 60日前まで	75～ 100mℓ ／10 a	通常散布 50～100ℓ ／10 a 少量散布 25～50ℓ ／10 a	1回	雑草茎葉 散布	全域	1回	
いんげんまめ			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 45日前まで							
にんじん			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで	50～ 100mℓ ／10 a						
だいこん			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 45日前まで							
てんさい			雑草生育期 (イネ科雑草 3～8葉期) 但し、収穫 90日前まで	75～ 100mℓ ／10 a	70～ 100ℓ ／10 a					北海道
たまねぎ			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで							
いちご (親株床)			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫後 ～定植まで	50～ 100mℓ ／10 a						全域
トマト			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 21日前まで							

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯	フルアゾホップ を含む農薬の 総使用回数								
				薬量	希釈 水量												
かんしょ	—	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 60日前まで	50～75mℓ /10a	70～ 100ℓ /10a	1回	雑草茎葉 散布	全域	1回								
ばれいしょ			雑草生育期 (イネ科雑草 3～8葉期) 但し、収穫 前日まで	75～ 100mℓ /10a	75～ 100ℓ /10a												
キャベツ		一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで	50～ 100mℓ /10a	100ℓ /10a	2回 以内				雑草茎葉 散布	全域	2回 以内					
アスパラガス			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 前日まで		70～ 100ℓ /10a												
やまのいも			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで		1回	100ℓ /10a							1回	北海道			
にんにく			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 21日前まで														
ブロッコリー			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 30日前まで		1回										100ℓ /10a	1回	北海道
せんきゅう			雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期) 但し、収穫 90日前まで														

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯	フルアホップ を含む農薬の 総使用回数
				薬量	希釈 水量				
かんきつ		一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	春季～夏季 雑草生育期 (草丈20cm以下) 但し、収穫 120日前まで	200～ 300ml /10 a		1回	雑草茎葉 散布		1回
		チガヤ、ススキ 等の多年生 イネ科雑草	春季～夏季 雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫 120日前まで	300～ 500ml /10 a					
いぐさ	—	水田一年生 イネ科雑草	落水後 (雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期))	100～ 200ml /10 a	100～ 150ℓ /10 a	2回 以内	雑草茎葉 散布 (落水)	全域	2回 以内
桑		一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5葉期)	75～ 100ml /10 a					
つつじ類 つばき類 とちのき さくら まつ しゃりんばい		イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) シバムギ レッドトップ	雑草生育期 (草丈20cm以下)	100～ 200ml /10 a			雑草茎葉 散布		
日本芝		ペントグラス	雑草生育期 (芝休眠期)	150ml /10 a			散布		
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生 イネ科雑草 キシュウスズメノヒエ	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫 120日前まで	200～ 400ml /10 a		1回	雑草茎葉 散布		1回
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 (草丈20cm以下)	150～ 300ml /10 a	100ℓ /10 a	3回 以内	植栽地を 除く 樹木等の 周辺地に 雑草茎葉 散布		3回 以内
		多年生 イネ科雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下)	400～ 600ml /10 a	150ℓ /10 a				

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2)散布液の調製にあたっては本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布すること。

- (3)少量散布（25～50ℓ）の場合は、専用ノズルを使用すること。
- (4)本剤使用の際は展着剤を加用すると効果的である。
- (5)本剤をだいこんに使用する場合、間引き菜又はつまみ菜として食用には供さないこと。
- (6)本剤は広葉及びカヤツリグサ科雑草には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用すること。尚、広葉雑草が混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との組み合わせで使用すること。
- (7)イネ科雑草の生育盛期が本剤の散布適期であり、冬期の低温時や出穂期以降など雑草の生育が停止している時は効果が劣るので、適期を失しないよう散布すること。
- (8)本剤は遅効性であり、イネ科雑草が完全枯死に至るには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないよう注意すること。
- (9)イネ科作物には薬害を生じるので、周囲にイネ科作物がある場合は薬液が飛散しないよう注意して散布すること。
- (10)作物の生育期に使用する場合：散布前後の気象が低温、寡照であると、処理葉に褐斑やクロロシスを生じるおそれがあるのでこの場合には所定範囲の少なめの薬量とし、展着剤の加用をさけること。
- (11)だいでイネ科雑草の8～10葉期に使用する場合、雑草の草丈が30cm以下で使用すること。
- (12)日本芝に使用する場合、次の事項に注意すること。
 - ①芝の生育期に散布すると薬害を生じるので、使用時期を誤らないように注意すること。
 - ②寒地型西洋芝には微量で薬害を生じるので、飛散、流出などにより薬害が生じることがないよう十分注意して散布すること。
 - ③本剤は効果の発現が遅く、春先になってから現れる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意すること。
- (13)激しい降雨の予想される場合は、使用をさけること。
- (14)散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布すること。
- (15)散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (16)本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (17)公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ①水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - ②散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器、空袋等は、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (18)取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1)誤飲などのないよう注意すること。
- (2)原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3)原液は皮膚に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。また散布液も皮膚に対して刺

激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼をすること。
- (5) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (6) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。